

褥瘡ケアの  
「常識」「非常識」クイズ  
【環境整備編】

監修 大山 瞳

株式会社日立製作所 ひたちなか総合病院

在宅医療推進センター 訪問看護係 主任

訪問看護ステーションかけはし 管理者

皮膚・排泄ケア認定看護師

<Q1>

褥瘡予防には体圧を分散させるケアが重要だが、そのためのツールとして円座の使用が有効である。

⇒  YES  NO

<Q2>

褥瘡を予防するためには体位変換の回数が多ければ多いほど効果的であり、昼夜問わず、2時間おきの体位変換が理想である。

⇒  YES  NO

<Q3>

褥瘡の前触れと疑われる皮膚の発赤(赤み)を発見したら、その部分を3秒圧迫してみる。離れたときに発赤が消えていれば褥瘡ではないので特に処置は必要ない。

⇒  YES  NO

<Q4>

褥瘡リスクが高い方の寝具に使用するシーツは、できるだけピンと張ることが重要である。

⇒  YES  NO

<Q5>

褥瘡リスクの高い患者の寝具に使用するシーツに防水シーツや横シーツを重ねて使用する事は望ましくない。

⇒  YES  NO

<Q6>

エアーマットレスは、できるだけ空気を張って使用したほうがよい。

⇒  YES  NO

<Q7>

ベッド上で過ごす場合、体が足側に下がってしまう時はバスタオルを体の下に敷き、バスタオルごと頭側に持ち上げるとよい。

⇒  YES  NO

<Q8>

ベッド上で過ごす場合、体が足側に下がってしまう時は脇の下と膝の下に手を入れ抱えたほうがよい(おひめさま抱っこ)。

⇒  YES  NO

<Q9>

車椅子で過ごす場合、長時間座るときにずれを防ぐために滑り止めマットを使用するのは望ましくない。

⇒  YES  NO

<Q10>

寝返りができず体位変換に介助を要する方が側臥位をとる場合、背中にポジショニングピローを押し込むように入れて、安楽な体位に心がける。

⇒  YES  NO

<Q11>

骨突出部の発赤部へのマッサージは血流増加やリンパ液の流れをスムーズにするため、可能な限り行なうことが望ましい。

⇒  YES  NO

<Q12>

仰向けの場合、お尻の中央にある骨が突出している部分(仙骨部)に最も褥瘡ができやすく、肩甲骨部やかかとなどにもできる。頭部は硬いため褥瘡はできない。

⇒  YES  NO

<Q13>

踵部に発生した褥瘡を悪化させないようにするために、アキレス腱部分の下に丸めたバスタオルを入れて踵部を浮かせた。

⇒  YES  NO

<Q14>

全ての介護用ベッドは介護者を考慮して作られているので、ベッドアップ、ダウンするとリラックス効果がある。

⇒  YES  NO

<Q15>

在宅 K 式スケールは、在宅版褥瘡発生リスクアセスメントスケールである。前段階要因に「介護知識がない」が含まれ、介護者が褥瘡予防のポイントについて述べることはできず、褥瘡発生のリスクになる。

⇒  YES  NO